

平成25年度 南相馬市小高区地域協議会委員研修について

(研修の主旨)

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により多くの尊い生命と財産、これまで築きあげてきた歴史・文化的財産が失われた。そして、その後の原子力災害により小高区は全域が警戒区域に指定され、いまだ避難指示が解除されず不自由な避難生活が続き、住民コミュニティは分断されている。

このことをうけ、今回の地域協議会研修では、

震災の記録や教訓を伝えていくための施設を視察し、震災の風化をさせないための方策を考える。

震災被害を受け、住民ネットワークづくりによる地域防災力強化の取り組みを研修し、住民避難により喪失しつつある住民コミュニティ再構築につなげる。

本市と災害時相互援助協定を締結した自治体を訪問し、避難者の受け入れや人員・物資支援など、震災直後からの援助の絆から始まった支え合う関係を生かすため、交流を深める方策を考える。

避難者交流会を訪問して、避難先での新たなコミュニティが生まれてきた経緯を把握し、避難により分断されたコミュニティの今後の再構築を考える。
を基本に研修を行う。

(視察研修行程)

1日目

おぢや震災ミュージアム「そなえ館」(新潟県小千谷市)
本市と災害時相互援助協定を締結した自治体を訪問し、震災の記録や教訓を伝えていくための施設を視察研修する。
休館日：毎週水曜日

2日目

【案1】

北条地区コミュニティ振興協議会(新潟県柏崎市)
震災後の住民ネットワークによる地域防災力強化の取り組みを研修する。

【案2】

新潟市 のんびり浜通りの会(新潟県新潟市)
避難者交流会を訪問し、避難者との交流を行い、避難先での新たなコミュニティが生まれてきた経緯を把握する。
定例会：毎週水曜日

(研修先について)

1日目

【おぢや震災ミュージアム「そなえ館」】

直下型、震度7の大地震が新潟県中越地方を襲ったその時、被災地では何がおこっていたのか？ おぢや震災ミュージアム「そなえ館」では、地震発生から3時間、3日、3ヶ月、3年と復興までの歳月をたどりながら疑似体験し、当時の人々が体験した体験談や教訓を学ぶことができる。また、これらの体験を通じて、いざという時に、どんな「そなえ」が必要なのかを深く考えることができる施設である。

なお、本施設の所在する新潟県小千谷市は、南相馬市と昨年12月25日に本市と災害時相互援助協定を締結している。

休館日：毎週水曜日

2日目

【案1】

【北条地区コミュニティ振興協議会】

新潟県柏崎市北条地区は、平成16年の東日本大震災により住宅など損壊被害、上下水道破断、道路陥没などで被災者の救護や炊き出しなどが遅れた。

平成18年春、その教訓から「北条地区コミュニティ振興協議会」は全町内会で自主防災組織を立ち上げ、災害に備えた組織づくりを進めてきた結果、平成19年に東日本大震災では、地震発生から2時間後には地区内の被害状況を全て把握し、消防や行政への支援要請などがスムーズに行われた。

平成22年、2度の被災体験を生かした地域防災力向上の取り組みが評価され「防災功労者内閣大臣表彰」を受賞した。

【案2】

【新潟市 のんびり浜通りの会】 代表者 門馬てつ子(小高区小谷)

新潟県新潟市寺尾地区の自治会館などで、毎週水曜日に開催されている「のんびり浜通り」は、おもに50代以上の人たちが一日ゆっくり過ごすことができる居場所として毎回20人以上が集まり、思い思いに過ごしています。

定例会：毎週水曜日